

3年後の宮崎国スポでは完全優勝を目指す――

ウェイトリフティング選手 五十川 いずみ さん (23歳) (宮崎県スポーツ協会)

京都府出身の23歳。中学時代は陸上部に所属し、ウェイトリフティングは高校から始める。今年、日本体育大学を卒業し、5月に小林市へ移住。10月のSAGA2024国スポでは、ウェイトリフティング競技女子59kg級に出場し、スナッチ3位、ジャーク2位、トータル2位で表彰台に立つ活躍を見せた。

「頑張れば結果が数字に表れるところが面白い」。そのように競技の魅力を話すのは、重量挙げ選手の五十川いずみさん。

高校時代から親交のある内之倉和彦^{うちのくらかずひこ}教諭（小林高）に誘われ、今年5月に京都府から小林市に移住。県の競技力推進員として、自身の練習をしながら高校生への指導も行っている。

「移住は人生最大の決断だったけど、間違っていないかった」と五十川さん。

移住後、同教諭の指導で練習の質を高め、フォーム改善にも取り組んだ結果、大学1年間で全く伸びていなかった記録が約3カ月で5kgアップ。10月に佐賀県で開催された国民スポーツ大会では、表彰台に立った。

「2本目が本当に重かったので不安しかった。目の前のバーベルを上げることに必死でした」。

表彰台入りへの分かれ道となったジャーク3本目。挑戦した108kgは、ここ1年半ほど練習でも上げられていなかった重量。見事成功させ、自身初となるメダルを獲得した。

「ほっとしたという気持ちが一番。結果が出てうれしい」と笑顔で振り返る。

「1点でも多く取り、宮崎県のためにたたかう国スポは、私にとって特別な大会。小林市に来てから、国スポで結果を残すことを一番の目標に練習してきた」。

3年後には宮崎県で国スポが開催される。ウェイトリフティング競技の会場はここ、「小林市」だ。

「スナッチとジャークで完全優勝して宮崎県に貢献し、応援してくれている人たちに感動を与えたい」。

バーベルに向き合う五十川さんの瞳には、3年後の金メダルが見えている。

「高校生ががんばっている姿を見ると自分もがんばれる」。競技力推進員としての高校生への指導が自らの競技にもいい影響を与えていると五十川さん

「内之倉先生の指導は教え方が的確で、腑に落ちる。私に合っていました」。国スポ初のメダル獲得後は尊敬する先生と仲良く写真撮影



小林
こばやしびと
Vol.125